

日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.54

令和2年度(2020)年10月10日発行

編集・発行 全国美術部門広報室
代 表 八重樫良二(北海道教育大学)
総務局長 芳賀正之(静岡大学)
広 報 室 E-mail: daibibumon@uaesj.com (総務局専用)
事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacoss.com

全国美術部門代表挨拶

全国美術部門代表 八重樫 良二(北海道教育大学)



令和2年度の全国美術部門代表を務めさせていただきます北海道教育大学、八重樫です。どうぞよろしくお願いいたします。今年度は新型コロナウイルス感染防止への対応に迫られる中での授業開始となりました。全国の学校が否応無く遠隔授業の実施に迫られる事態。教育のみならずその対応は社会全般に大きな影響が及んでいます。今なお今後が案じられる最渦中であって、少しでも早くこの渦が収束することを願っています。

改めまして。近年、多くの大学が既設の大学院組織を教職大学院とする改組に取り組んでいます。こうした大学教育を含む教育改革について書かれた図書の一つに遠山敦子氏が著した「こう変わる学校、こう変わる大学」があります。発刊当時、前文部科学大臣であった氏が、教育界にこれから起こる変化について書いたものです。その出版から既に16年が経ちました。その中には専門職大学院制度についても記されています。今になってその内容を読み解くなら教職大学院への改組は当時から既に予告されていたものと理解できます。このように過去を振り返って見ると、身近になって初めて気が付く出来事も川の流れを遡るようどこからやって来たものか、分かることがあります。

私が大学教員の職に就いてまもない頃。先輩から部門会員になることへの説明を受けても私にはよく分かりませんでした。美術部門とは何か。こ

のこについて記した文章が学会HPのトップページに置かれている「日本教育大学協会全国美術部門と大学美術教育学会のあゆみ」です。かつて部門と学会の長を務めた東京学芸大学の増田先生から御寄稿いただき掲載しています。そこには部門と大学美術教育学会についての経緯が記され、その関係は私には水源を一つにする二本の川の流れのように映ります。この一文は新米の私が抱いた疑問に答えてくれるものであり、皆様にも是非ご覧いただけたならと願います。

教職大学院への改組に伴い美術教育に携わる教育組織においては、教科専門の人員の希薄化が進むことが危惧されています。部門は教科専門の会員が多数であった状態で発足し、その状況は長く続いていましたが、今後はこうした変化とともに会員数自体の減少が予想されます。このように大学改革は部門組織にとっても密接して影響あることです。さらにはコロナ禍は様々に予期せぬ変化をもたらすのかもしれない。

発足以来70年間に渡って、部門は美術教育と文部行政に対する共通の視座を得るべく活動を続けてきました。教員養成における美術教育に係るヴィジョンの構築と発信。留まることのない川の流れのよう、その活動を継続していくことが大切だと思っています。どうぞ会員皆様からのご協力をいただけますようお願いします。

令和元（2019）年度 部門 役員・各種委員会委員一覧

- 代表 佐藤哲夫*（新潟大学）
- 副代表 新関伸也*（滋賀大学）
小澤基弘*（埼玉大学）
- 顧問 小野康男*（前横浜国立大学）
- 総務局委員
総務局長 新野貴則*（山梨大学）
副総務局長 芳賀正之*（静岡大学）
村田 透*（滋賀大学）
総務局員 笠原広一（東京学芸大学）
河西栄二（岐阜大学）
前芝武史（兵庫教育大学）
小谷 充（島根大学）
大貫真寿美（帝京大学）

■大会運営委員

- 河西栄二（岐阜大学）
- 株田昌彦（宇都宮大学）

■監事

- 山本政幸（岐阜大学）
- 松尾大介（上越教育大学）

■地区全国委員

I〔北海道〕

- 橋本忠和（北海道教育大学函館校）
- 竹田園子（北海道教育大学岩見沢校）

〔東北〕

- 遠藤敏明（秋田大学）
- 蛭名敦子（弘前大学）

II〔関東〕

- 宮里明人（東京学芸大学）
- 渡辺邦夫（横浜国立大学）

III〔北陸〕

- 池上貴之（金沢大学）
- 隅 敦（富山大学）

〔東海〕

- 大宮康男（静岡大学）
- 安田篤生（愛知教育大学）

IV〔近畿〕

- 前芝武史（兵庫教育大学）
- 日野陽子（京都教育大学）

〔四国〕

- 金子宜正（高知大学）
- 山田芳明（鳴門教育大学）

V〔中国〕

- 吉田貴富（山口大学）
- 井戸川豊（広島大学）

〔九州〕

- 幸 秀樹（宮崎大学）
- 廣瀬 剛（大分大学）

■学校美術教育支援委員会

（兼 大学造形教育連絡協議会）

（兼 全国造形教育連盟大学部会）

- 委員長 大橋功（岡山大学）
- 副委員長 笠原広一（東京学芸大学）
- 委員 松本昭彦（愛知教育大学）
杉林英彦（愛知教育大学）
後藤雅宣（千葉大学）
神野真吾（千葉大学）

*印：運営委員

令和2(2020)年度 部門 役員・各種委員会委員一覧

■代表 八重樫良二* (北海道教育大学)

■副代表 新関伸也* (滋賀大学)
佐藤賢司* (大阪教育大学)

■顧問 佐藤哲夫* (新潟大学)

■総務局委員

総務局長 芳賀正之* (静岡大学)
副総務局長 村田 透* (滋賀大学)
松尾大介* (上越教育大学)
総務局員 笠原広一 (東京学芸大学)
河西栄二 (岐阜大学)
前芝武史 (兵庫教育大学)
秋山敏行 (愛媛大学)
大貫真寿美 (帝京大学)

■大会運営委員

株田昌彦 (宇都宮大学)
小林俊介 (山形大学)

■監事

新野貴則* (山梨大学)
原口健一 (横浜国立大学)

■地区全国委員

I〔北海道〕

竹田園子 (北海道教育大学岩見沢校)
福江良純 (北海道教育大学釧路校)

〔東北〕

蛭名敦子 (弘前大学)
平野英史 (岩手大学)

II〔関東〕

渡辺邦夫 (横浜国立大学)
神野真吾 (千葉大学)

III〔北陸〕

隅 敦 (富山大学)
松尾大介 (上越教育大学)

〔東海〕

安田篤生 (愛知教育大学)
関 俊一 (三重大学)

IV〔近畿〕

日野陽子 (京都教育大学)
藤田昌宏 (滋賀大学)

〔四国〕

山田芳明 (鳴門教育大学)
吉川暢子 (香川大学)

V〔中国〕

井戸川豊 (広島大学)
山本和史 (岡山大学)

〔九州〕

廣瀬 剛 (大分大学)
宮田洋平 (福岡教育大学)

■学校美術教育支援委員会

(兼 大学造形教育連絡協議会)

(兼 全国造形教育連盟大学部会)

委員長 西村德行 (東京学芸大学)
副委員長 笠原広一 (東京学芸大学)
委員 後藤雅宣 (千葉大学)
神野真吾 (千葉大学)
花輪大輔 (北海道教育大学)

*印：運営委員

令和元年度 地区会報告

【 北海道地区会 】

日時：令和元年度 9 月 11 日（水）15:00～15:30

場所：

- ・札幌：第 4 会議室 ・旭川：第 2 会議室
- ・釧路：第 3 会議室 ・函館：応接室
- ・岩見沢：大会議室

参加者：

- ・札幌キャンパス：佐藤昌彦,李知恩,花輪大輔
- ・旭川キャンパス：八重樫良二,南部正人,岩永啓司
- ・釧路キャンパス：佐々木幸
- ・函館キャンパス：橋本忠和
- ・岩見沢キャンパス：阿部宏行,佐々木けいし,竹田園子

協議事項

①令和 4 - 5 年の地区全国委員・地区全国理事については、ローテーションの順番に基づいて札幌校にお願いする。担当者については 1 2 月末までに決めてもらい、橋本が札幌校に連絡し担当者を確認する。

②北海道地区全校美術部門協議会規定 8 / 9 条付則の会費の規定については、現在、徴収し使用する事案（必要）がないので、規定はこのまま残し、今後、徴収の必要性が出てきた時、規定に基づき集めるようにする。

（その際、当番校の規定についても総会で確認する）

報告事項

1. 平成 29 年度拡大理事会（29 年 9 月開催）報告

①令和元年度拡大理事会（2019 年 9 月 20 日岐阜大開催予定）報告は、本部より後日、会報等であると思うが、北海道地区に関する共有する必要がある情報等があれば、地区代表（橋本）が理事会後、書面で報告する。

② 北海道・東北ブロックにおける学会の開催地区情報

令和 3 年度が東北地区、令和 8 年度は北海道地区で行う予定の報告が昨年度の理事会であった。

確認事項・新規・退会会員及び令和元年度北海道地区名簿の確認

変更・追加情報等があれば地区代表（橋本）の方へ

その他（情報交流）

各キャンパスから、大学院改革や卒業生の進路情報等に関する状況報告があった。

橋本忠和（北海道教育大学函館キャンパス）

【 東北地区会 】

日 時：令和 1 年 6 月 21 日（金）13:30～17:00

場 所：山形大学小白川キャンパス 地域教育文化学部 1 号館 2 階 応接室

出席者：蝦名敦子（弘前大学）、遠藤敏明（秋田大学）、溝口昭彦（岩手大学）、渡邊晃一（福島大学）、虎尾裕（宮城教育大学）、降籬孝（山形大学）、土井敬真（山形大学）、小林俊介（山形大学）

本年度開催校（山形大学）から開催の辞と挨拶のあと山形大学の降籬孝先生が議長として選出された。

<協議題>

協議題(1)として、山形大学より、令和 3(2021)年度の日本教育大学協会全国美術部門協議会および第 60 回大学美術教育学会における協力体制について検討され、以下の事項が確認・了承された。

①標記会議の開催校を山形大学とする。ただし、北海道・東北ブロックにおけるこれまでの協議の経緯をふまえ、当会議に参加する東北 6 大学全体で運営その他の業務を担当する。

②第 60 回大学美術教育学会の大会テーマ等について、来年度の当会議における協議事項とし、各大学で事前に検討した案を持ち寄る。

協議題(2)は、教職大学院について宮城教育大学より提案され、各大学から教職大学院の現状について報告され、改組の方向性や授業担当、定員確保

などの問題点を共有した。

< 談話題 >

談話題は、AO 入試導入や実技試験の有無を含む入試実施状況について、教員採用の現状、学生の就職、大学美術科の改組や将来像、学部改革や大学院の現状と改組など多岐にわたる内容について議論された。

各大学とも現状・見通しともに厳しく、改組による配置換えや後任不補充の結果、極めて少人数の教員で中学校美術免許提供を維持したり、授業等を運営せざるを得ない状況であることが明らかになった。

【 関東地区会 】

日 時：令和元年6月9日（日）

・代議員会 13:00～13:30（代議員会受付 12：45～）

・地区総会 13:30～14:30（地区総会受付 13：15～）

・協議会 14:30～16:45

・懇親会 17:00～

場 所：東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系
2号館・第2会議室

出席者：全30人

■ 地区総会

地区長挨拶（太田）

1. 前年度議事録の確認

地区代表より確認依頼（宮里）

「地区長」は「地区代表」に訂正との（栗田）からの指摘があり訂正することになった。

2. 平成30年度関東地区会収支決算報告（埼玉大学）

会計担当の埼玉大学（石上）から報告された。

3. 平成30年度関東地区会会計監査報告（山梨大学）

監査担当の山梨大学（栗田）から報告・承認された。

4. 平成30・令和元年度・2年度全国美術部門地区全国委員選出

地区代表の 東京学芸大学 宮里明人に決定。

5. 平成30・31年度大学美術教育学会地区全国理事選出

地区代表の 東京学芸大学 宮里明人に決定。

6. 令和2年度地区総会・協議会の開催について

当番大学（横浜国立大学）、会計大学（東京学芸大学）、監査大学（埼玉大学）が確認された。

7. その他

次年度の代議員会・地区総会実施日は令和2年6月6日（土）、会場は横浜国立大学に決定した。

■ 協議会

1. 承合事項

配布資料を基に承合事項について説明があり、大学間で承合した。

・承合事項についてはウェブサイトなど鍵がかかるところでデータを共有するなどできるのではとの意見があった。

・関東地区会の運営に関する提案【学芸大学】協議事項にて協議した。

2. 協議事項

・全体テーマについて【宇都宮】

全体テーマは実施大学から提案し、全国理事会で承認して決定となるが、本日は候補となる提案を確認した。

・関東地区会の運営に関する提案【学芸大学】関東地区会の運営に関する提案について別紙に基づき協議がなされた。

持続できる形を模索していく必要があり、大会運営の協力体制を構築して進めることとし、各大学から運営委員を選出する。運営委員の支援業務に係る交通費は本会から支出することとすることが決まった。

・関東地区会の運営に関する提案を、全国理事会でも共有すべきとの意見が出された。

3. その他

なし

【 北陸地区会 】

日時：令和元年7月5日（金） 13:50～15:50

会場：富山国際会議場 2階多目的会議室 202号室

参加者（敬称略）：

上越教育大学 安部, 兪
新潟大学 橋本
金沢大学 池上, 大村, 鷺山
富山大学 上山, 隅, 鼓
福井大学 坂本, 湊
議長: 金沢大学 鷺山先生

報告事項:

- ①日本教育大学協会 全国美術部門委員会報告
(金沢大学 池上先生)
- ②大学美術教育学会理事会報告 (金沢大学 池上先生)
- ③平成30年度事業報告と会計報告 (金沢大学 鷺山先生), 令和元年度予算案報告 (富山大学 隅先生)
- ④その他

協議事項:

- ①教職大学院・他研究科での大学院教育のあり方について (新潟大学)

新潟大学: 新潟大学では教育学研究科が廃止され、教職大学院が動き出したが、教科では一部の教員のみ兼任としての関わりとなっている。講座教員は現代社会文化研究科・自然科学研究科に別れて所属し、何れかの専任教員となり芸術関連教育に関わっている。

>各大学ごとに教職大学院への関わり方はことなる。全体が教職大学院の担当, 所属はせず一部担当, 所属も担当もしない。など。

- ②教員養成に関する課題について (富山大学)

学校教育の現場では、教員採用試験の倍率の低下から、教員を志望する学生を多く卒業させて欲しいという要望が届くが、そもそも、大学に入学する際に教職を希望する学生が減っている現実から、いかに、教員免許を取得させて教職に就かせるかが課題となっている。各大学のお取り組みをお聞きしたい。

>教員を志望する学生数が減っているところ、維持できているところに別れる。ただし、維持できているところでも、美術の専門性の高い(足腰の強い)教員を送り出せなくなりつつあるのが問題。

承合事項:

書類を確認した上で、簡単な質疑応答があった。

意見について:

研究協議会のあり方(信州大学): 本件については、去年の金沢の時に話をしており、開催大学の判断でメール審議や Skype 等の導入は可能であることを再確認した。

【東海地区会】

日時: 令和2年6月30日(日) 10:30~15:00

会場: アスト津 4F・アストプラザ会議室 2

参加者: 20名(敬称略)

■岐阜大学 4名

河西栄二 佐藤昌宏 隼瀬大輔 野村幸弘

■静岡大学 4名

伊藤文彦 大宮康男 高橋智子 占部史人

■三重大学 5名

関 俊一 山口泰弘 上山浩 奥田真澄 山田康彦

■愛知教育大学 7名

佐々木雅浩 杉林英彦 鷹巣純 富山祥瑞 永江智尚
松本昭彦 安田篤生

会議: 10:30~12:28

1. 令和元年度 部門・学会地区委員について

平成31・32年委員は大宮康男が継続、また、令和元・2年度担当委員として安田篤生が選出された。また、白井嘉尚の退職による退会と占部史人の採用による入会を確認した。

2. 次年度(令和2年度)開催地について

令和2年度東海地区会開催校は、ローテーションに基づき、岐阜大学と決まった。

3. 令和元年度大学美術教育学会の開催について

令和元年度大学美術教育学会の開催校・岐阜大学の河西栄二大会運営委員から進捗状況について説明があった。これに基づき、岐阜大会の日程は9月21・22日、役員会は9月20日の予定で、発表は全学共通棟で行なわれ、懇親会は学内の第2食堂となった。また、各発表会場の司会を地区会員に協力要請があった。

4. 志願者数の動向(入試情報)に関する意見交換

各大学の入学志願者数の動向と入試への取り組みが報告された。特に最近の少子化による受験者の確保に対する工夫が議論された。また、入試の過去問題の WEB 上での公開に関する各大学の問題点が議論された。

5. 卒業生、修了生の卒業後の進路状況について卒業・修了者の進路について、各大学の状況が報告された。特に教員就職者数に関する数値目標への対応が紹介された。その一方で一般企業への就職状況は売り手市場で、各大学とも概ね良好ということであった。

6. 教員養成大学・学部及び大学院の今後のありかた

学部については各大学の状況が、特に教職免許、教育実習に関する取り組みが報告された。また、大学院についてはいずれも大学院の教職大学院への一本化の方向については一致していることが確認された。ただし、未だ、未定の部分があるところは検討中で公表できないという個所もあった。

7. その他 特になし

石水博物館見学：13:50～15:00

昼食の後、自動車で石水博物館に移動し、企画展「川喜多半泥子の愛蔵品—茶道具を中心に—」を学芸員の説明を受けながら鑑賞し、その後は15:00を目途に流れ解散となった。

【近畿地区会】

日時：令和元年6月22日（土）14:00～17:00

場所：京都教育大学 D6 講義室

出席者：大阪教育大学・谷村さくら

奈良教育大学・狩野宏明

兵庫教育大学・前芝武史

滋賀大学・藤田昌宏

和歌山大学・高木栄一、永沼理善

京都教育大学・谷口淳一、丹下裕史、

日野陽子、村田利裕、山内朋樹

報告・協議事項

○会員数：大阪教育大学—10名

（教員養成過程7名、教養課程3名）

奈良教育大学—6名

兵庫教育大学—7名

（うち2名が教職大学院）

滋賀大学—4名

和歌山大学—5名（来年度3名）

京都教育大学—5名

○昨年度協議会および学会奈良大会の報告、会計報告（奈良教育大学から）

○今年度岐阜大会の確認：9月21日（土）、22日（日）

○令和2年度以降の地区理事の確認

兵庫 → 令和2年度 [京都 → 滋賀] → 和歌山 → 大阪 → 奈良

○各大学からの状況報告

・大阪教育大学

学部定員—小中11名・中7名 計18名

教員就職率—39%

大学院在籍者—M2 教育学研究科（9名）

M1 教職大学院（1名）今年から

教育協働学科—学部定員 10名（H29 学部改組）

大学院 新しい形の大学院を R3 から開講予定

・奈良教育大学

学部在籍者数—美術教育専修 各学年11～13名在籍

文化遺産教育専修 各学年2～6名

教員就職率—5割程度

大学院—専門職学位課程（教職大学院）重点化

美術、伝統文化修士課程（4～6名在籍）特色化

・滋賀大学

学部在籍者数—各学年7～9名

教員就職率—30年度-100%、29年度-50%、28年度

-43% 大学院—M1-1名 M2-無し

R3年より教職大学院へ一本化

・和歌山大学

学部在籍者数—各学年5～7名

教員就職率—30年度 29%、29年度 40%、28年度

60% 既存大学院—在籍者無し。R2年度募集停止

教職大学院—R2年度から一本化

教科領域ユニット（音、美、家）

・京都教育大学

学部定員—13名 教員就職率—40%前後

大学院（教育学研究科）M1-3名、M2-6名、内現職

2名 教員就職率 60～100%

教職大学院への移行を予定

・兵庫教育大学
学部在籍者数一各学年 0～4 名 教員就職率は高い
大学院—M2・6 名、M1・4 名
教職大学院 音、美、体は入っていない
連合博士課程

○その他

- ・教育現場や美術館等との協力関係の現状
- ・教職大学院への移行プロセスについて
- ・教員志望者を高める方策について
- ・統合について（奈良教育大学×奈良女子大学）

【 四国地区会 】

日時：令和元年 6 月 30 日 12:00～15:10

場所：高知大学 朝倉キャンパス教育学部 3 号館
版画・陶芸室

出席者：山田芳明（鳴門教育大学）、古草敦史（香川大学）、上原真依（愛媛大学）、金子宜正（高知大学） 以上 4 名

議題：

1. 各大学の四国地区会会員数及び本年度の地区全国委員の確認

各大学の四国地区会会員数は、以下のとおり確認された。鳴門教育大学（7 名）、香川大学（2 名）、愛媛大学（6 名）、高知大学（1 名）

本年度四国地区理事は以下のとおり、確認された。
金子宜正〔高知大学〕（2018 年度～2019 年度）

山田芳明〔鳴門教育大学〕（2019 年度～2020 年度）

2. 9 月全国美術部門・学会総会について

本年度四国地区理事（高知大学・金子）より、昨年の奈良大会における美術部門総会及び学会総会での審議事項と報告事項を、奈良大会当日の配付資料及び日本教育大学協会全国美術部門会報 No.53・大学美術教育学会会報 No.37 をもとに確認した。

- ・現状にあわせた規約の改正
- ・会計報告及び予算案
- ・学会誌への応募状況及び採択者数等

あわせて、2019 年度 第 58 回 大学美術教育学会岐阜大会（第二次案内）をもとに日程等を確認した。

3. 総務局からの連絡について

本年度四国地区理事（高知大学・金子）より、平成 30 年度 第 2 回全国美術部門役員会・大学美術教育学会理事会（メール会議：平成 31 年 3 月 14 日）の報告が行われたことが確認された。

- ・登録メールアドレスの確認
- ・平成 31 年度の地区全国委員・地区全国理事、各種委員会委員の選出（議題 1 のとおり）
- ・日本教育大学協会全国美術部門の入退会者の手続きについて（変動なし）

4. 各大学からの議題（話し合った内容）

・美術のまとまりについて
教大協の美術部門のまとまりかた、構成そのものと大学の現状（教員の配置等）が合わなくなってきたのではないかという話題が出た。このことは、同時に、美術教育を学ぶ学生が、以前のようにひとつのまとまりではなく、入試で実技試験を受けて入ってくる学生や入学後の分属などによって学部内で多様化しているということが話された。

さらに、各大学の教職大学院の現状について情報交換が行われ、各大学の現状について情報交換が行われた。

- ・大学美術教育学会全国大会開催校のローテーション（近畿・四国）について

近畿・四国の全国大会当番校について、近々の問題として、どの大学も会員数減少の傾向の中で、一つの大学が単独で開催することが困難であることが予想される。開催方法については、今後、継続的に地区会で検討していく必要があることが確認された。

【 中国地区会 】

日時：2019 年 6 月 8 日（土）14:00～16:45

会場：山口大学教育学部 22 番教室

出席者：川路澄人・小谷充・藤田英樹（島根大学）、武田信吾（鳥取大学）、山本和史（岡山大学）、内田雅三・一鉢田徹（広島大学）、上原一明・中野良寿・平川和明・吉田貴富（山口大学）

【 1 】 研究発表会（14:05～15:30）

今回はテーマを「教育実践」とし、各大学 1 本の

発表を会場校からお願いした。授業実践、課外活動、海外研修などの発表があり、質疑応答とあわせ刺激となり実りある会となった。

【2】 定例総会 (15:30~16:45)

1. 報告・協議

(1) 全国委員会・理事会報告 川路澄人(島根大学)

(2) 2018 年度地区会会計報告 小谷充(島根大学)

(3) 2018 年度会計監査報告 平川和明(山口大学)

(4) 協議：中国地区会の在り方について

①審議事項1：中国地区会会費について(地区会会費を当分の間、集めない旨について)

決定事項：2020 年度以降徴収しないということで、全大学一致で賛同を得た。

②審議事項2：中国地区会について(定例総会、研究会の開催の有無について)

決定事項：定例総会をメール審議で行う方向で本部との折衝や規程の改正を行う。定例総会がメール審議で行えることになれば、研究会のためだけに集まるということはしないので、地区会として集まる必要は無くなる。会計・監査と引き継ぎについては別途検討する。地区規程の改正が必要なため、来年度(2020 年度) 広島での地区会までは規程どおりとする。

③審議事項3：地区全国委員(いわゆる地区理事)の全国会議出席への補助について→審議事項4に議論が及んだ。

④審議事項4：定例総会を開催しない(メール審議に代える) ことにした場合の会計・監査と引継ぎについて

審議事項3, 4の確認事項：「地区理事への補助を即廃止すべき」という意見は少ない。一方で、地区理事への補助の問題は「会計・監査と引き継ぎ」の問題と関連しており、地区理事への補助を続けるとしても、地区会として集まらなくなった場合の会計のあり方についてはいくつかの考え方が出された。

2. 地区理事交代挨拶

前理事／川路澄人(島根大学)：2017~2018 年度

継続理事／吉田貴富(山口大学)：2018~2019 年度
新理事／井戸川豊(広島大学)：2019~2020 年度
(代読：一鍬田徹)

3. 次期当番大学挨拶 一鍬田徹(広島大学)

吉田貴富(山口大学)

【九州地区会】

日時：令和元年6月28日(金)14:00~17:00

場所：宮崎大学まちなかキャンパス

出席者：15名

福岡教育大学；宮田洋平、笹原浩仁

佐賀大学；栗山裕至、和田学

長崎大学；兼原啓二

熊本大学；緒方信行

大分大学；廣瀬剛

鹿児島大学；池川直、清水香

琉球大学；吉田悦治

宮崎大学；石川千佳子、大泉佳広、大野匠、樺島優子、幸秀樹

情報交換会(18:00~20:00)

研究協議会

1. 開会のことば

2. 出席者紹介

3. 議長選出；幸秀樹(宮崎大学)、
廣瀬剛(大分大学；次期開催大学)

4. 協議題(議長；幸秀樹)

1)教育学研究科・美術の今後のあり方について
各大学より今後のあり方について意見を述べた。基本的に教職大学院に一本化することが確認されたが、抵抗感を持つ大学もあった。大学間連携については各大学の強みを生かしてできないかという提案があった。現状では、大学内での新研究科構想や県内私立大学との連携を模索していることが報告された。

2)学部の将来構想について

各大学によって状況は異なるが、複数の大学からフルスペックを維持する方針であることが示された。同時に先細りしないための工夫が必要であることが指摘された。

5. 承合事項(議長；廣瀬剛)

1)過去3年間分の美術科の受験者数(推薦入試、AO入試、前期入試、後期入試)について資料に基づき確認。

2)昨年の美術教員(中高)の募集状況と採用数について資料に基づき確認。

3)「図工」の専科制の有無について他教科の状況の報告があった。

4)教職大学院において、美術科関係教員の授業科目の現況(有無)はどうであるか、また、今後変更の予定等はあるか、情報を頂きたい各大学の担当状況について報告があった。

5)大学入学共通テスト導入後の入試の方法について

昨年度同様、退職教員の後任不補充や、教員養成系大学、学部の統合化の動きに大きな変化は見られない。しかし、教員養成フラッグシップ大学構想など、新たな中核大学と周辺大学の差別化により、地域における国公立だけでなく近隣の私立大学との連携などが急速に進む恐れもある。

特に教員採用率が最も大きな規準となるため、今後、教員就職率の低い学部などへの風当たりは強くなるだろうとの意見もだされた。

今後も、都道府県単位での地域に根ざした教員養成の重要性を教大協でアピールすべきで、現在大学部会で担当している「中学校美術科教員実態調査」を継続し、必要に応じ新たな調査内容や方法を検討して行くことも大切ではないかとの意見

令和元年度 各種委員会活動報告

各大学の対応状況について報告があった。

学校美術教育支援委員会報告

●全国造形教育研究大会愛知大会報告

全国造形教育研究大会愛知大会(令和元年11月21日、22日)の校種別会議・大学部会は、美術館部会と合同で、21日9:30から10:30まで、全体会場である日本特殊陶業市民会館で行われた。会議の主たるテーマは、前回から引き続き、以下の4点となった。

1. 「大学教員による美術教育研究への積極的な支援について」

全造連では、開催地域の大学の教員を中心に助言者等として協力しているが、他地域からの協力には大学教員による手弁当の参加が必要。しかし、大学部会に出席する大学教員は少ない。そもそも、大学部会で何がされているか、また大学部会があってもそこに参加する必要性など、全国大会参加への意識が低い実態がある。今後も、幼保・小中学校などと連携していくことの重要性を継続的に周知し取り組んでいくことが確認された。

2. 「教員養成系大学の課題についての現状報告と情報交換」

が出された。

3. 美術教育関連 8 団体の継続と学会統合問題

昨年度行われた美術教育関連 8 団体(全造連も所属)の継続について担当学会を確認し、企画運営をするように依頼することとした。また、日本美術教育学会、美術科教育学会、大学美術教育学会による造形芸術教育連絡協議会が中心となり、美術教育関連学会の最終的な統合に向けての連携、検討も行われていることが報告された。

4. 美術館教育の現状

今回も、東京富士美術館からの出席はあったが、なかなか他の美術館関係者の出席が見られず、この点についても、今後どのように広報していくかが検討課題である。

●中学校美術科教員実態調査結果について

平成26年3月に全国大学造形美術教育教員養成協議会と日本教育大学協会(以下、教大協)全国美術部門とで組織された大学造形教育連絡協議会の事業の一環として、全国造形教育連盟大学部会(学校美術教育支援委員会が兼務)において中学校の美術科の専任教諭や非常勤講師の中学校への配属状況等について把握するための「中学校美術科教員実態調査」を実施することを決定し、こ

れ以降、継続的に調査をしている。

令和元年度においては、全国造形教育連盟に所属する各都道府県・政令指定都市の事務局を対象に質問紙調査（7月～11月）を行い、26の事務局から回答を得た（回収率 約 39%）。

調査の結果、美術科の専任教諭を配置している学校は約 44%、配置していない学校は 56%あること、非常勤教員・講師で対応している学校や免許外教員で対応している学校の数は都道府県によって大きな差があることなどが明らかになった。

この結果は、令和元年度教大協全国研究部門代表者連絡協議会を通して、教大協会長へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」として提出した。

本調査は、信頼性・有用性の向上を目指して調査方法や調査時期などを改善しながら、継続的に実施していく予定である。

5.部門各種委員会

(1) 学校美術教育支援委員会

大橋委員長より、今年度愛知大会、来年度千葉大会である報告がなされた。

(2) 平成 30 年度 中学校美術科教員実態調査

新野総務局長より調査結果の報告がなされた。

6.和元年度 部門協議会

新関副代表より、概要集の資料をもとに令和元年度 部門協議会について報告がなされた。

Ⅲ 協議事項

1.令和 2-3 年度 部門代表・副代表（案）について

佐藤代表より提案があり、総会にて承認を得ることが確認された。（代表：北海道教育大八重樫先生 副代表；滋賀大新関先生、大阪教育大学佐藤先生）

2.平成 30 年度決算、平成 30 年度 事業計画(案)・予算（案）

令和元年度 役員会報告

日時：令和元年 9 月 20 日（金）16:30-17:10

場所：岐阜大学共通教育棟 31 講義室

司会進行：新野貴則（総務局長）

I あいさつ

開会の辞 新関伸也副代表から挨拶がなされた。

代表挨拶 佐藤哲夫代表から挨拶がなされた。

開催大学挨拶 佐藤昌宏岐阜大会運営委員長から挨拶がなされた。

II 報告事項

1.令和元年度 部門会員登録状況

芳賀副総務局長より、9月20日現在、部門会員は299名であること報告がなされた。

2.令和元年度 役員・各種委員会委員

新野総務局長より、概要集の資料をもとに令和元年度役員・各種委員会委員の報告がなされた。

3.平成 30 年度 事業報告

新野総務局長より、概要集の資料をもとに平成 30 年度事業報告について報告された。

4.令和元年度 部門会員名簿

村田副総務局長より、部門会員名簿について、今年度が会員名簿冊子発行であると報告がなされた。

(1) 平成 30 年度 決算

芳賀副総務局長より説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

(2) 平成 30 年度 監査

松尾監事より、資料をもとに令和元年 9 月 20 日に実施した監査委員会について、会計が適切に処理され、正確に決算が執行されていた旨の説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

(3) 令和元年度事業計画（案）

新野総務局長より、概要集をもとに説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

(4) 令和元年度予算（案）

芳賀副総務局長より、令和元年度の部門会員は299名であることが報告され、資料をもとに令和元年度予算(案)について説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

3.その他 特になし。

IV その他

総会の議長・副議長候補の説明がなされた。

V あいさつ

閉会の辞 小澤副代表から挨拶がなされた

(終了 17 : 10)

令和元年度 総会報告

日時：令和元年 9 月 22 日（日）15:45-16:15

場所：岐阜大学 共通教育棟 105 講義室

司会進行：河西栄二（岐阜大学）

書記：村田 透（滋賀大学）

1. 開会の辞

佐藤代表から挨拶がなされた。

2. 議長団選出

議長として近畿・四国地区会の前芝武史(兵庫教育大学)、副議長として関東地区会の宮里明人(東京学芸大学)が選出された。

3. 議事

【報告事項】

(1) 令和元年度 役員・各種委員会委員

佐藤代表より、概要集の資料をもとに令和元年度役員・各種委員会委員の報告がなされた。

(2) 平成 30 年度 事業報告

新野総務局長より、概要集の資料をもとに平成 30 年度事業報告について報告がなされた。なお、部門会報・第 54 号について、令和元年度には発行せず、令和 2 年年度 6 月に発行予定であることが説明された。

(3) 平成 30 年度 決算

芳賀副総務局長より、資料をもとに決算の報告がなされた。

(4) 平成 30 年度 監査

山本監事より、資料をもとに令和元年 9 月 20 日に実施した監査委員会について、会計が適切に処理され、正確に決算が執行されていたことの報告がなされた。

(5) 学校美術教育支援委員会

大橋委員長より、全造連大学部会が今年度は愛知大会（2019.11.21）、次年度は千葉・成田大会（2020.11.20）である報告がなされた。

(6) 令和 2 年度協議会の開催大学

株田大会運営委員より 2020 年 9 月 19 日(土)、20

日(日)の仮日程で予定されている宇都宮大会について、説明がなされた。

【協議事項】

(1) 令和 2-3 年度 部門代表・副代表（案）について

佐藤代表より提案があり、総会にて承認が得られた。(代表：北海道教育大八重樫先生 副代表：滋賀大新関先生、大阪教育大学佐藤先生)

(2) 令和元年度事業計画（案）

新野総務局長より、概要集をもとに説明があり、総会にて承認が得られた。

(3) 令和元年度予算（案）

芳賀副総務局長より、令和元年度の部門会員は 299 名であることが報告され、資料をもとに令和元年度予算(案)について説明があり、総会にて承認が得られた。

(4) その他 特になし

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

小澤副代表より閉会の辞がなされた。

第58回 大学美術教育学会 岐阜大会報告

東海地区の3大学教育系学部の支援体制の下、2019年9月20日(金)～22日(日)に、「2019年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第58回大学美術教育学会」を岐阜大学で37年ぶりに開催しました。天候も心配したほどでもなく、210名余りの有料参加者があり、招待者・企業参加者・スタッフをあわせると、約270名近くが岐阜大学のキャンパスに集いました。



図1 開会式で挨拶する佐藤大会運営委員長

1. 概要

[日程]

○大会前日 9月20日(金)午後 役員会議

○大会1日目 9月21日(土)

開会式、日本教育大学協会全国美術部門主催協議会、口頭発表、大会運営事務局主催シンポジウム、懇親交流会

○大会2日目 9月22日(日)

口頭発表、ポスター発表、学生会議、総会

[大会テーマ]人はアートで育っていく。～美術教育の新しい動向～

[会場] 501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学

[主催] 日本教育大学協会全国美術部門協議会／大学美術教育学会

[共催] 国立大学法人岐阜大学

[後援] 公益財団法人岐阜観光コンベンション協会

[運営] 岐阜大学 大会運営事務局

[発表申込み・事前申込み]

○口頭及びポスター発表の申込(演題登録)

7月1日(月)9時から8月7日(水)24時まで

概要集原稿提出期限も8月7日(水)24時まで

○発表者、事前参加登録・振込期限 9月1日(日)24時まで

[参加者]

○有料参加者 212名(事前申込者 141名: 会員・一般 107名、院生・学生 34名/ 当日申込者 71名: 会員・一般 52名、院生・学生 19名。)

招待者 6名、スタッフ 43名、企業 11名。

○懇親交流会有料参加者 130名(事前申込者 94名: 会員・一般 73名、院生・学生 21名、企業 4名/ 当日申込者 32名: 会員・一般 27名、院生・学生 5名) 招待者 2名、スタッフ 9名

[発表者] 口頭発表 54件

ポスター発表 14件

2. 大会1日目 9月21日(土)

[口頭発表] 21、22日の両日に行なわれた口頭発表では、鑑賞教育、教師教育、材料・素材研究、理論研究、海外での教育思想研究、美術教育史、幼児造形教育などの発表があり、熱心な意見交換がありました。

[開会式][全国美術部門協議会]開会式に引き続き、本部事務局主催「日本教育大学協会全国美術部門協議会」(10:00-11:00)では、「教職大学院における造形美術教育の現状と課題」というテーマの下、新関伸也氏(滋賀大学)をコーディネーターとして、松本健義氏(上越教育大学)、西村德行氏(東京学芸大学)、新野貴則氏(山梨大学)の3名の



図2 協議会登壇者



図3 シンポジウム登壇者

パネリストから、令和元年度に改組された教職大学院の全体像や造形美術教育の授業や実習等の現状について報告していただき、課題や展望について協議しました。

[シンポジウム]大会運営事務局主催シンポジウム「人はアートで育っていく。～美術教育の新しい動向～」を行ないました(17:30-19:00)。

登壇者に日比野克彦氏(岐阜県美術館館長)、会田大也氏(山口情報芸術センター、ビデオ出演)、松本和子氏(フレスコ画家)をお招きし、野村幸弘(岐阜大学教授)がコーディネーターを務めました。約250名の参加者があり、美術教育の新しい取り組みとして、はじめに会田大也氏がビデオ映像であいちトリエンナーレ2019のラーニング・プログラムとして採用した「対話型鑑賞」を紹介し、観客のクリエイティビティと発信力への期待を語りました。続いて松本和子氏が京都の涉成小学校の空き教室を利用したアーティスト・レジデンスの取り組みを、最後に日比野克彦氏が岐阜県美術館の館長に就任以来、約5年間にわたって県内施設と連携しながら美術館を地域に開放する試みを紹介しました。会場からは、視覚的な美術を言語化することの重要性や、学校における予算化された鑑賞教育の実践例など、貴重な意見が出されました。

[懇親交流会]同日夕刻の大学内での約140名の参加の懇親交流会では、佐藤哲夫代表・理事長(新潟大)や本学森脇久隆学長の挨拶のほか関連学会の美術科教育学会副代表理事の宇多秀士氏(奈良教育大)、日本美術教育学会事務局長の大橋功氏(岡山大)、全美協(私立大学)会長の沖中重明氏(頌

栄短期大学)のスピーチがあり、多いに交流を深めました。会後半では次年度大会開催の宇都宮大学のスタッフの挨拶もあり、大会の櫛をつなげました。

3. 大会2日目 9月22日(日)

[ポスター発表]同日昼に行なわれたポスター発表では、14件の発表があり、参加者との近い距離での対話や議論が生まれました。

[学生会議]岐阜大会で10回目の開催となる学部学生を中心とした学生会議では、「私たちが考える美術教育」というテーマのもと、今後の美術教育について代表学生の発表をもとに熱心な議論を交わしました。

[総会]年一度の総会においては、活動計画案、決算・予算報告などについて審議しました。

4. 大会運営について

多くの発表者、参加者、企業ブース関係者及び本部事務局の支援により、盛会となりましたことに御礼申し上げます。なお岐阜大会は、以下のスタッフにより、運営致しました。

○岐阜大会運営事務局(岐阜大学 教育学部 美術教育講座内)[大会運営委員長] 佐藤昌宏/[大会運営副委員長(研究)] 野村幸弘/[大会運営副委員長(総務)]/大会運営委員] 河西栄二/[大会運営事務局委員] 山本政幸、隼瀬大輔/[院生・学生スタッフ] 38名

○第58回奈良大会システムサポートデスク
京都市上京区 中西印刷株式会社内

[謝辞] 東海地区3大学の先生方、芳賀先生、サポートデスク河合真須美氏には、特段のご支援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。



図4 口頭発表



図5 懇親会で交流を深める参加者



図6 懇親会での宇都宮大学スタッフ挨拶

平成30年度 全国美術部門 決算

■収入の部

(円)

	費 目	金 額	備 考
年会費	会費	741,000	3,000円×247名
	未納分	189,000	
助成金	教大協成金	80,000	
繰越金	平成29年度繰越金	272,854	
	合 計	1,282,854	

■支出の部

(円)

	費 目	金 額	備 考
補助金	全国協議会補助金	200,000	広島大会
印刷製本費	会報発行	0	
	名簿発行	0	隔年発行
運営費	運営員会・拡大総務局会	130,713	旅費(学会+部門 261,426)
	会場費	40,612	会場費(学会+部門 81,224)
	各種委員会等	17,312	部門調査
事務経費	通信費	39,848	会費請求
	事務費	0	
	雑費	1,080	手数料
委託費	事務支局業務委託費	97,200	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,080	年会費
予備費	予備費	0	
	合 計	1,282,854	

1,282,854 (収入の部) - 530,845 (支出の部) = 752,009 次年度へ繰越

令和元年度 全国美術部門 予算案

■収入の部

(円)

	費目	決算額	予算額	増減	備考
年会費	会費	741,000	897,000	156,000	3,000×299名 (令和元年度会員)
	未納分	189,000	0	-189,000	
助成金	教大協助成金	80,000	80,000	0	
繰越金	平成30年度繰越金	272,854	752,009	479,155	
	合計	1,093,854	1,729,009	635,155	

■支出の部

(円)

	費目	決算額	予算額	増減	備考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	岐阜大会
印刷製本費	会報発行	0	150,000	-150,000	全国美術部門会報 No. 53 (発送費込み)
	名簿発行	0	0	0	隔年発行
運営費	運営員会・拡大総務局会	130,713	300,000	169,287	旅費
	会場費	40,612	50,000	9,388	会場費
	各種委員会等	17,312	50,000	32,688	部門調査
事務経費	通信費	39,848	50,000	10,152	会費請求
	事務費	0	10,000	10,000	
	雑費	1,080	10,000	8,920	手数料
委託費	事務支局業務委託費	97,200	97,200	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,080	4,080	0	年会費
予備費	予備費	563,009	807,729	244,720	
	合計	1,093,854	1,729,009		

平成30年度 部門 事業報告

令和元年度 部門 事業計画

5月31日(木)	「奈良大会二次案内」メール配信
6月8日(金)	H30 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月28日(木)	「奈良大会三次案内」発行・郵送
7月8日(日)	第1回総務局会(東京/ABC貸会議室)
7月30日(月)	第71回全国造形教育研究大会 秋田大会
～7月31日(火)	
8月22日(水)	第2回総務局会(メール会議)
8月27日(月)	奈良大会事前参加申込締切
9月6日(木)	「奈良大会案内(最終案内)」HP掲載、メール配信
9月中旬	平成29年度会計監査 (山本監事・松尾監事)
9月21日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会、大学造形教育連絡協議会(全美協との協議会)
9月22日(土)	平成30年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第57回大学美術教育学会「奈良大会」：部門・学会合同開催式(奈良教育大学)、研究発表(口頭)、シンポジウム、部門・学会合同懇親会、部門協議会、ポスター発表、総会、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-岐阜大学)
～9月23日(日)	
11月28日(水)	日本教育大学協会への事業実績報告(H30.4-12事業分)
(平成31年)	
1月25日(金)	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
3月3日(日)	第1回代表・理事長選考委員会、第4回総務局会(東京/TPC貸会議室)
3月14日(木)	第2回部門役員会(メール会議)
3月29日(金)	日本教育大学協会への事業報告(H30.12-H31.3事業分)
	*上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

4月5日(金)	「岐阜大会一次案内」郵送・HP掲載
6月4日(火)	R1 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月9日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(東京/ABC貸会議室)
6月24日(月)	「部門会報」発行・郵送・HP掲載
	「岐阜大会二次案内」郵送
8月27日(火)	第2回総務局会(メール会議)
～9月2日(月)	
9月1日(日)	岐阜大会事前参加申込締切
9月3日(火)	「岐阜大会最終案内」HP掲載、メール配信
9月18日	平成30年度会計監査 (山本監事・松尾監事)
9月20日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会、大学造形教育連絡協議会(全美協との協議会)
9月21日(土)	令和元年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第58回大学美術教育学会「岐阜大会」：部門・学会合同開催式(岐阜大学)、研究発表(口頭)、シンポジウム、部門・学会合同懇親会、部門協議会、ポスター発表、総会、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-宇都宮大学)
～9月22日(日)	
11月21日(木)	第72回全国造形教育研究大会 愛知大会(全国造形教育連盟大学部会)
～11月22日(金)	
11月下旬	日本教育大学協会への事業実績報告(R1.4-12事業分)
(令和2年)	
1月下旬	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
2月	第3回運営委員会、第3回総務局会
3月	第2回部門役員会(メール会議)
3月下旬	日本教育大学協会への事業報告(R1.12-R2.3事業分)
	*上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減ときめ細やかな会員サービスの実現のために、部門からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行させていただいております。

会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がございましたら、随時、e-naf システムより会員登録情報の更新をお願い致します。

<更新方法>

- ①日本教育大学協会全国美術部門会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く
<https://e-naf.jp/ART-BUMON/member/login.php>
- ②「ログイン ID（会員番号）」と「パスワード」を入力（ID は封筒の宛名の右下に記載があります。今後も必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）
- ③会員登録情報をクリック
- ④画面一番下の「修正」をクリック
- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。
- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

問合せ先について

日本教育大学協会全国美術部門では、平成 26 年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、日本教育大学協会全国美術部門事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

日本教育大学協会全国美術部門事務支局
（中西印刷株式会社内）

Tel:075-415-3661

e-mail:art-bumon@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス
e-mail:daibibumon@uaesj.com

年会費の支払いに関するお願い

日本教育大学協会全国美術部門は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入くださいますようご協力お願い致します。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身で e-naf より会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただいておりますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00940-9-173101

加入者名：日本教育大学協会全国美術部門

*大会参加費の送付先とは異なりますので、ご注意ください。

部門会員の名簿について

日本教育大学協会全国美術部門では、2年ごとに会員名簿を作成し、会員の皆様にお送りしております。

令和3年度は、会員名簿を作成する年度となっております。各地区会を通して会員の皆様に名簿作成にご協力いただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

なお、会員名簿は年度末に発行する予定です。

【総務局広報担当】

芳賀正之（静岡大学）

河西栄二（岐阜大学）

村田 透（滋賀大学）

松尾大介（上越教育大学）

